

## トピック みんな違って当たり前 釜山「アジア共同体学校」を訪ねて

ソフィーの会 大塚とみこ

私は、昨年10月27日、「ソフィーの会」という読書サークルの対馬～釜山ツアーに参加し、朴順子さんの案内で、「アジア共同体学校」を訪問しました。一昨年、朴さんが勤めていた学校です。(注：フォーラムニュースのNo.27に掲載)

街の大通りから静かな通りに曲がり、ゆるい坂をのぼると校舎が見えてきました。思っていたよりずっと大きな学校です。その日はちょうど学校のお祭りの前日で、子ども達も先生方も(どちらかわからない人が幾人も)どこか上気して忙しそうでした。校庭には、祭りのためのテントが設営され、万国旗が校舎から放射状に高く張られていました。校舎内に入ると、子ども達も先生方もいよいよ明日開幕ということで大忙し。そんな中、朴さんは教え子たちに再会し、ハグの嵐を受けていました。

お祭りのメインテーマは世界のお化け、その名も「ワールドゴーストフェスティバル」。入場条件は仮装していること。部屋ごとにテーマがあり、来場者を驚かせたり怖がらせたりする趣向が凝らされています。テーマも含めてすべて子ども達の考えだそうです。例えば、ゲームをしてその結果次第で決められたポケットに手を入れると反対側(こちらからは見えない)で待ち構えている人がその手を握ったりとか、岩壁など紙でいかにもそれらしく迫力満点にできていました。本物の植物の葉を大量に使ったり(自然のいい香りがした)、生きた鶏がいたり(狭いところに入れられてストレスが心配!); また日本がテーマの部屋もありました。校長先生の奥さん(最初に子ども達の居場所作りを始めた方)がお忙しい中話を聞かせてくれました。この学校には世界各地から釜山に働きに来ている人たちや国際結婚した人たちの子どもが通っています。ほんとに様々な背景を持つ子ども達。人種、宗教、年齢、文化、言語、



滞在期間、家族構成等。韓国語の習得状況も様々で、韓国語を教えるクラスもあります。朴さんはその先生でした。授業料は無料。公的な支援を受けていますが、運営はいつも大変で寄付集めが欠かせないそうです。校長御夫妻は“まず動く”がモットー。世界各地に子ども達と出掛けて行きます。群馬の赤城山に来た時の写真も展示されていました。

校舎は、ひどく荒れた廃校を先生やスタッフたちで手を入れて今の状態にしたということでした。問題が次から次に湧き起ったであろうことが想像されます(現在もおそらくこれからも)。彼女は、そういう日々を子ども達と向き合うことを喜びとして奮闘してきたに違いない、と感じさせる自然体のとても素敵なお方でした。学校の近隣の人達ともいい関係を築いているそうです。御夫妻は宗教家ではなく、その行動が信仰からのものではないと知りさらに驚きました。

ここではみんな違って当たり前。生易しいことではないと思いますが、何か心地よさが確かにある。希望を感じる学校でした。朴さん連れて行ってくださりありがとうございます！



左が筆者 中が朴副校長